自己評価票

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)		
	I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有					
1. 2	理ぶと共有		1			
1	○地域密着型サービスとしての理念地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを理解したうえで独自に理念を作成している。	0	理念については今後も職員で話し合っていく。来 年度は地域密着型サービスの役割を反映した言葉 の表現にも取り組みたい。		
2	○理念の共有と日々の取り組み管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全体で話合って決め、日々サービスに 反映させるよう努力している。理念はスタッフ ルームや休憩室に掲示し、いつでも目につくよう にしている。				
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念はホームの玄関に掲示し、面会時やサービス計画の説明時にも家族に伝え、理解頂いている。	0	村の地域ケア会議の活動を通して地域への理念の浸透を図りたい。		
2. :	地域との支えあい		•			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄っるようのとものできるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することがないも。また、地域の高齢者等のり組んでいる。またないか話し合い、メイトになる。とがないが話し合い、メイトになる。担当職員はキャラバンメイトになるとがないが話したが、メイトになる。地域の認知症普及活動に参加している。	地域の皆さんには、気軽にたちよって下さいと声掛けし、畑仕事後など立ち寄って下さる。地域の商工会のイベント、地域行事への参加、小中学校、体験学習、ボランティアの受け入れをしている。	0	実習生の受け入れ。専門性や認知症介護の実践経 験を地域の皆さんにも還元する場を設けたい。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 3	理念を実践するための制度の理解と活用			
	○評価の意義の理解と活用			
5	運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施後、指摘事項は職員会議で報告検討し、全体 で改善に取り組んでいる。	0	取り組みの内容を全員が理解出来るよう継続して 話し合っていきたい。
	○運営推進会議を活かした取り組み			
6	運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	会議では外部評価の結果や改善策について報告 し、それについてのメンバーの意見も真摯に受け 止めサービス向上に努めている。		
	○市町村との連携			
7	事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、運営や 現場の実情等を積極的に伝える機会を作 り、考え方や運営の実態を共有しながら、 直面している運営やサービスの課題解決に 向けて協議し、市町村とともにサービスの 質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回ホームだよりを配布し、その都度情報 交換している。地域ケア推進部会に参加し課題を 共有している。		
	○権利擁護に関する制度の理解と活用			
8	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人に はそれらを活用できるよう支援している	制度に関する研修に参加して、会議で全員に報告しているが、活用されていない。	0	勉強会を設け全職員の理解を深め、利用者や家族 に情報提供したい。必要に応じて地域包括支援セ ンターへの相談を援助したい。
	○虐待の防止の徹底			
9	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、報告しているが、充分な理解はされていない。マニュアルの作成に取り組んでいる。	0	マニュアルを作成し、虐待が発生した時の対応方 法を明確にしていく。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)			
4. 理	4. 理念を実践するための体制						
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者 や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説 明を行い理解・納得を図っている	家族には契約内容や方針を説明し、理解頂いている。					
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別にコミニュケーションをとり会話の中から見 出すよう努め、反映させている。	0	意見の反映を心掛けているが、利用者が遠慮や我慢をしていることも考えられるので、職員一人ひとりの対応の見直しや、家族からの聞き取りも行っていきたい。			
12		家族と会ったときは状況に応じて、随時説明している。遠方の家族には定期的に電話等で報告。金 銭管理も一ヶ月に一回領収証を添付して報告している。					
	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが活用されていない。直接意見苦情があった場合は、管理者を中心に検討し日々のサービスに反映させている。	0	家族会の設立を考えている。今年中に家族懇談会を開催するよう計画している。			
14	○運営に関する職員意見の反映運営者や管理者は、運営に関する職員の 意見や提案を聞く機会を設け、反映させて いる	日々業務の中で意見を聞いたり、会議の際に意見 を出し合っている。法人の全体会議が月1回あ り、職員の意見の提案が出来る。	0	個別に時間を設け、意見を聞く機会を持ちたい。			
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟 な対応ができるよう、必要な時間帯に職員 を確保するための話し合いや勤務の調整に 努めている	利用者の希望に添うよう、時間調整等して柔軟に 対応している。反面、職員の都合で外出の人数が 制限されてしまうこともある。					

			O LH	
	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮			
	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員を配置する場合は、利用者が戸惑いや 不安にかられないよう充分説明し理解して頂いて いる。離職者もなく、馴染みの職員のケアを受け られる状況にある。	0	新しく職員配置をする際はホーム内に写真自己紹介等の掲示をしたい。
5. ,	・ 人材の育成と支援			
	○職員を育てる取り組み			
17	運営者は、管理者や職員を段階に応じて 育成するための計画をたて、法人内外の研 修を受ける機会の確保や、働きながらト レーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じた研修に参加し、職員会 議で報告している。内部研修は計画されている が、予定通りには行われていない。	0	内部研修を充実し、介護技術の向上を図りたい。
	○同業者との交流を通じた向上			
18	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いこくま荘との相互訪問をしているが地区の他事 業者との交流は少ない。	0	下北地区の同業者との交流を多くしていきたい。
	○職員のストレス軽減に向けた取り組み			
19	運営者は、管理者や職員のストレスを軽 減するための良好な工夫や環境づくりに取 り組んでいる	懇親会を開催している。日々の業務の中でストレスが感じられたら、声をかけ、相談助言をしている。		
	○向上心を持って働き続けるための取り組 み			
20	運営者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、各自が向上心を 持って働けるように努めている	個々の勤務状況や努力は把握して、労うようにしている。資格取得を奨励し、資格手当を支給している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ .5	安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. ‡	目談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
	○初期に築く本人、家族との信頼関係				
21	相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでには、利用者の希望等を把握し、 家族の思い希望も訊き、信頼関係を築くよう心掛 けている。			
	○初期対応の見極めと支援				
22	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何のサービスが必要かを探り、必要に応じて アドバイスしたり、地域包括支援センターとの連 絡を取っている。他のサービスを紹介することも ある。			
	○馴染みながらのサービス利用				
23	本人が安心し、納得した上でサービスを 利用するために、職員や他の利用者、場の 雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談 しながら工夫している	入居希望があった場合は、本人や家族に事前訪問 を勧めている。			
2. 🛊	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に おかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を 築いている	利用者が経験してきたことを話して貰い、作物の 栽培の仕方、調理方法、天気予報等をアドバイス して貰っている。嬉しい事悲しい事に共感してコ ミニュケーションもとれている。	0	職員は利用者と一緒に活動する機会を多く持ち、 利用者が自然な形で能力を発揮できるよう関わっ ていく。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に おかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を 支えていく関係を築いている	家族との情報交換は入所時より常に密に行われ一緒に支えている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に 努め、より良い関係が築いていけるように 支援している	本人と家族との関係に配慮し、疎遠になっている 場合は関係の修復に向け、こまめな連絡をしてい る。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの 人や場所との関係が途切れないよう、支援 に努めている	希望に応じ、馴染みの人や場所への外出を支援している。また、冠婚葬祭時の外出を支援してこれまでの関係が途切れないよう努めている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとり が孤立せずに利用者同士が関わり合い、支 え合えるように努めている	良い関係が生まれる場合もあるが、対立してしま うこともあるので、誰かが孤立することがないよ う、全体を掌握して付き添いや見守りをしてい る。	0	利用者同士が関わりあい、支え合えるよう、職員 が情報交換をしながら、チームケアをしていきた い。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継 続的な関わりを必要とする利用者や家族に は、関係を断ち切らないつきあいを大切に している	サービス終了後も気軽に家族に立寄っていただい ている。また、いつでも来てくれるよう働きかけ ている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)			
ш.	Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1	1. 一人ひとりの把握						
	○思いや意向の把握						
30		利用者と話して意向を聞き取るようにしている。 必要に応じて家族等から今までのライフスタイル を聞いている。					
	○これまでの暮らしの把握						
31	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし 方、生活環境、これまでのサービス利用の 経過等の把握に努めている	担当が中心にアセスメントしている。家族からも 情報収集し、ケアカンファやサービス計画作成時 に情報を活用している。					
	○暮らしの現状の把握						
32	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活のリズムは記録し、分かっているがいるが、 総合的な把握には至っていない。	0	個別の一日の状況を調査して、総合的な把握に努 めたい。			
2. 7	ト人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	成と見直し					
	○チームでつくる利用者本位の介護計画						
33	本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	担当者等が調査し、本人の意見を尊重して、計画 を作成している。カンファレンスで職員、家族の 意見を反映し理解を求めている。	0	担当以外の職員も介護計画に積極的に参画しチー ムケアをしていく。			
	○現状に即した介護計画の見直し						
34		3ヶ月程度の期限を設け、見直しをしているが、 新たな介護計画の作成が遅れることがある。見直 し時は再度アセスメントを行っている。	0	適時見直し、介護計画に基づいたケアが行われる よう習慣づけて生きたい。			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	ケース記録に記入し、実践した結果はユニット会議申し送り等で報告。ユニット会議で介護計画に沿って支援されているか、実践した結果について検討している。		
3. 🕏	多機能性を活かした柔軟な支援			
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な 支援をしている	可能な限り、本人家族の希望に応じて柔軟な支援 はしているが、特に自主サービスの開発として取 り組んでいない。	0	必要に応じて自主サービスを開発していきたい。
4. 7	本人がより良く暮らし続けるための地域資源とのt	劦 働		
37	○地域資源との協働本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランテイアの行事等での支援を受けている。消防、警察等との協力体制はある。図書館利用、小中学校との協力も行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他 のケアマネジャーやサービス事業者と話し 合い、他のサービスを利用するための支援 をしている	他事業所のケアマネージャーとは入退居時の連携 はしている。理美容は業者のサービスを利用。行 政の健康診断等の活用はされている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護 や総合的かつ長期的なケアマネジメント等 について、地域包括支援センターと協働し ている	地域包括支援センターとは常時連絡を取っている。特に入退去時は密に連携を取り、地域ケア会 議等で問題を共有している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については本人、家族の意向に基づいて行っている。受診記録を作成し、家族も含めて医療機関との情報交換や、話し合いをしている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築 きながら、職員が相談したり、利用者が認 知症に関する診断や治療を受けられるよう 支援している	家族との協力の下、必要に応じて専門医の受診が できるよう支援している。	0	認知症の人の医療に熱心な医師の協力を得られる ようにしたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域 の看護職と気軽に相談しながら、日常の健 康管理や医療活用の支援をしている	看護士の指導の下に健康管理を行っている。また、地域の看護士には相談、助言が受けられる関係ができている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせる よう、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備 えて連携している	入院時は医師との話し合いの時間を作って貰い、 退院の見込みや、状態を詳しく説明して頂いてい る。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につい て、できるだけ早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応については利用 者家族、医療機関と話し合いをしている。重度化 した場合の対応に係る指針があるが、方針の共有 がなされていない。	0	終末期の対応について研修を重ね、方針が共有で きるよう話し合っていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く 暮らせるために、事業所の「できること・ できないこと」を見極め、かかりつけ医と ともにチームとしての支援に取り組んでい る。あるいは、今後の変化に備えて検討や 準備を行っている	利用者や家族の意向を聞いて、医師と話し合いを しているが、事業所として出来ること、不安なこ とについて充分な話し合いがなされていない。	0	チームとしての支援が出来るよう、検討や準備を 行っていきたい。

			()卸		
	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	○住み替え時の恊働によるダメージの防止				
46	本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	利用状況提供書及び口答で情報を提供している。			
IV.	その人らしい暮らしを続けるための日々の支	援			
1. ₹	その人らしい暮らしの支援				
(1)	一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底				
47	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に尊敬の念を持ち言葉をかけるようにしている。ケース記録等の個人情報はスタッフルームで 記録し、持ち出さないようにしている。			
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援				
48	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入所時の調査をしっかり行い、日々の生活の中で は表情、態度からも読み取り、声掛けしている。			
	○日々のその人らしい暮らし				
49	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	一人ひとりに合った柔軟な支援を心掛けている。 入浴、食事等本人の希望に合わせているが、職員 の業務のペースで限定される面もある。		職員側の決まりや都合を優先していないか、検証 する姿勢を持ち、柔軟な支援をしていきたい。	
(2)	(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
	○身だしなみやおしゃれの支援				
50	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む理容、美容室にいくよう支援している。 日時も本人の希望を優先して決めている。		外出時はオシャレをしたり、お化粧を一緒にする 等の取り組みをしていきたい。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)		
	食事が楽しみなものになるよう、一人ひ とりの好みや力を活かしながら、可能な場	利用者の好き嫌いを把握している。下ごしらえ等 一緒に準備し可能な限り、職員も一緒に食事を 摂っている。後片付けも一緒にして貰っている が、数人に限られている。	0	男性利用者にも食事の準備や片付けに参加して貰うよう働き掛けたい。		
52		職員は利用者の嗜好品を把握している。自分で管理できる物は自由に楽しめるよう、買物を支援しており、お酒をたしなむ利用者もいる。				
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一 人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活 かして気持ちよく排泄できるよう支援して いる	排泄記録を活用し、必要があれば時間で排泄誘導 している。失禁時の対応は他者に気付かれないよ う配慮している。				
	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしま わずに、一人ひとりの希望やタイミングに	曜日、日は本人の希望を聞いて対応している。時間はある程度限定されるが、利用者と相談しながら決めている。出来るところは自分でして頂いている。	0	できるだけ利用者の希望に添うよう工夫し、入浴 を楽しめる支援をしていきたい。		
55		一人ひとりの睡眠パターンを把握している。また、その日の出来事や状況により柔軟に対応し休息を取って貰っている。昼夜逆転のある場合も他の人の妨げにならないよう、静かに会話するなどして付き添っている。				
(3)	(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした 役割、楽しみごと、気晴らしの支援をして いる	日々の生活の中で仕事や役割をもって貰っている。健康状態に配慮の上、地域行事に参加したり、気晴らしのドライブ等の外出を楽しんで貰っている。	0	一人ひとりの楽しみを知り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう援助したい。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	○お金の所持や使うことの支援				
57	職員は、本人がお金を持つことの大切さ を理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	本人の管理能力に合わせて、おこづかいを一部管理して貰ったり、買物時の支払いをして貰っている場合もある。	0	もっと、本人の能力を活かすよう支援したい。	
	○日常的な外出支援				
58	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	本人の希望により、自宅や自分の山畑を見に行ったり、兄弟親戚宅、公民館、図書館などへの外出をできるだけ支援している。			
	○普段行けない場所への外出支援				
59	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたいところは把握している、実現は 難しいこともある。	0	家族の協力を頂いて実現できるよう検討していき たい。	
	○電話や手紙の支援				
60	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援を している	手紙の返事を職員が支援して書いて貰ったり、電話は自由にできる雰囲気を作り、ゆっくり話して貰っている。	0	お礼のはがきを出すなど、社会との繋がりを保つ 支援をもっと積極的にしていきたい。	
	○家族や馴染みの人の訪問支援				
61	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	家族、知人等の訪問ではゆっくり会話できるよう 配慮している。宿泊も可能になっている。			
(4)	(4)安心と安全を支える支援				
	○身体拘束をしないケアの実践				
62	運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体拘束を行う場合は家族に同意を得ている。(夜間のベット柵使用していたことがある)	○印 (取組んでい きたい項目)	やむを得ず身体拘束を行う場合の同意書等の整備。期限、見直しなどのマニュアル作成。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外、鍵はかけず自由に出入りできるようにしている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している	職員は見守り易い場所で、所在や様子を把握している。居室に居る時も了解を得て戸を少し開けておいて貰ったり、見回りをする等して安全には配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	薬は鍵のかかるロッカーで管理。刃物、消毒液など危険物は利用者の手の届かない場所で管理している。約束事が有り、必要に応じて見直されている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットは回覧し、スタッフ会議で検討。再 発防止に向けた話し合いを行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	ユニット会議にて応急処置対応を実施。急変、事 故発生時のマニュアルがあり、それに従っている が、定期的な学習をしていないので急変時の対応 には不安もある。	0	救急救命の研修を定期的に行っていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている	消防署の支援を受けて、避難訓練は計画、実施されている。警察の協力も得られるようになっている。	0	地震想定の訓練も実施していきたい。地区消防団 への連携、協力依頼をしていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	日常生活で起こり得るリスク、健康面でのリスク については、入所時より面会等の機会に話して理 解を得ている。		
(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	○体調変化の早期発見と対応一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをし、健康記録をとって異変の発見に努めている。心理状態、嚥下状態、排泄など全体的に観察し、記録、申し送りの徹底を習慣づけている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている	看護士が説明し、ある程度の理解はしている。また、服薬内容をすぐに確認できるようファイルしてある。変更時は申し送り、スタッフノートで確認。服薬はスタッフ2人で確認している。	0	薬の目的、副作用等もスタッフ全員が把握し、健 康管理に役立てていきたい。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	メニューの工夫、水分摂取、体操歩行などの運動 の奨励で、自然排便に努めている。また、個人に よって排便を誘発する物が違うので、個別に配慮 している。医師と相談して服薬している場合もあ る。		
73		声掛け及び介助で、朝夕の口腔ケア、週2回の義 歯消毒は行われているが、毎食後は行っていない 利用者もいる。	0	個別に方法を工夫して、全員の口腔ケアが行われ るよう支援したい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録している。塩分、カロリーは個別に 加減している。摂取が充分でない場合は食形態を 工夫し、補助食品も利用している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めが あり、実行している (インフルエンザ、疥 癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しているが、定期的な学習はできていない。	()	学習し、確実に予防対策が実行されるようにした い。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場として の台所、調理用具等の衛生管理を行い、新 鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルがあり衛生管理している。作り置きは せず検食し、新鮮な物を使用するようにしている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親し みやすく、安心して出入りができるよう に、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には花や家庭的な傘立てを配し、明るく入り易い雰囲気をつくるようにしている。		
	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、 食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとっ て不快な音や光がないように配慮し、生活 感や季節感を採り入れて、居心地よく過ご せるような工夫をしている	季節の花を置きやすらぎのある空間作りをしている。明るさや日差しは適宜調整している。		
79	○共用空間における居場所づくり共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他、ソファーや個別に座り易い椅子を置いている。人間関係を観察しソファーの位置を工夫している。 喫煙場所はない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	○居心地よく過ごせる居室の配慮			
80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に相談し、それぞれテレビ、ラジオ、位牌等を持参している。家族の写真や思い出のある物を飾りつけているが、生活感や工夫が足りないこともある。	0	もっと、自分の馴染みの物を持ってきて、その人 らしく過ごせるよう、家族にも働きかけたい。
	○換気・空調の配慮			
81	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況をみながら温度、湿度の管理はしている。また、天候に配慮しつつ換気を心掛けている。		
(2)	- 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
	○身体機能を活かした安全な環境づくり			
82		各部屋入り口付近にも手すりを設置した。流し台 の高さが合わず使いにくい為、改修予定になって いる。車椅子の用意はされている。		浴室、スロープの手すり取り付けなど身体能力を 活かす工夫をしていきたい。
	○わかる力を活かした環境づくり			
83	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	家族了解のもとに表札を掲示している。各々違う 暖簾をして区別しやすくしている。		
	○建物の活用	ナ. 1 治は何た佐り 生呑め切締た寮!) べい		
84	建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	ホーム前は畑を作り、生育や収穫を楽しんでいる。庭にはベンチを設置し、寛げるようにしている。廊下には写真を貼り、利用者や訪問者が楽しめるようにしている。		

(部分)

部分は外部評価との共通評価項目です)

٧. リ	V. サービスの成果に関する項目			
項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方 の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の○ ②利用者の2/3くらいの③利用者の1/3くらいの④ほとんど掴んでいない		
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ご す場面がある	○ ①毎日ある②数日に1回程度ある③たまにある④ほとんどない		
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らし ている	○ ①ほぼ全ての利用者が②利用者の2/3くらいが③利用者の1/3くらいが④ほとんどいない		
88	利用者は、職員が支援することで生き生 きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の 2 / 3 くらいが ③利用者の 1 / 3 くらいが ④ほとんどいない		
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の 2 / 3 くらいが ③利用者の 1 / 3 くらいが ④ほとんどいない		
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で 不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が○ ②利用者の2/3くらいが③利用者の1/3くらいが④ほとんどいない		
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が○ ②利用者の2/3くらいが③利用者の1/3くらいが④ほとんどいない		
92	職員は、家族が困っていること、不安な こと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と②家族の2/3くらいと③家族の1/3くらいと④ほとんどできていない		
93	通いの場やグループホームに馴染みの人 や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように○ ②数日に1回程度③たまに④ほとんどない		

項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが拡がったり深ま り、事業所の理解者や応援者が増えてい る	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない		
95	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が○ ②職員の2/3くらいが③職員の1/3くらいが④ほとんどいない		
96	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が 〇 ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
97	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が②家族等の2/3くらいが③家族等の1/3くらいが④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成17年11月に開設した、村で初めてのホームです。スタッフも経験が浅く、当初は「家に帰りたい!」という利用者の思いに四苦八苦しながら、"居心地の良いホームにしたい""自分らしく安心して暮らして欲しい"という思いを強く持ち、そこから自分達の理念をつくりあげました。ホームの様子を伝える『さい荘だより』も軌道に乗り、家族や地域の方々との架け橋となっています。家族や馴染みのある地域の方々との繋がりを保つことに力を入れ、地域の行事に参加したり、馴染みの人に会えるよう支援しています。また、ホーム行事への参加呼びかけやボランテイアの受け入れ等、地域の方々に来て頂くよう努め、明るく開かれたホームを目指しています。自慢は広い畑です。今年はジャガイモと夕顔がよく採れ、畑仕事を楽しんだり、季節を感じて思い出話にも花が咲きました。これまでの経験や趣味を活かして、それぞれが自分の力を発揮できるような環境の整備や支援にも力を入れていきたいと考えています。まだまだ足りないことばかりですが、人生の大先輩である利用者さんに日々学び、外部評価、運営推進会議等の意見やアドバイスには真摯に耳を傾けて、改善に取り組んでいきます。